



大門山から見る大笠山

北陸の白山の北に位置する 300 名山を 3 日で 3 つやるというツアーである。今回は東京からバスではなく、北陸新幹線の開通を記念してか富山駅に午前 11 時集合である。毎日新聞旅行では、“医王山と白木峰” および“金剛堂山と人形山” とこのツアーと北陸 3 ツアーをシリーズに企画して、全部の参加も可能としている。このツアーはその最後でジジイ 6 人の参加者であったが、そのうち 3 人は全ツアーの参加者であった。

ちょうどいい時間の北陸新幹線は満席（2 週間前で）、1 時間早くしてやっとキップが取れたがこれも満員。最初からつまずいた。

初日の三方岩岳は、駐車場から 1 時間で登って降りてこられる山であるので、道路事情の発達で山登りを簡単にさせたことを覗わ



三方岩岳

せる。ツアーリーダーは、ニコニコマンの庵原さんと、私は初めて会う仙石さんである。仙石さんは、ヨーロッパアルプスを本拠とする山岳ガイドで、この北陸ツアーの3つのシリーズを毎日新聞旅行と契約したそうである。7つの山の下見とツアーリーダーを務めるので、2週間北陸に詰めっきりのことである。30歳代前半と思えるファイトマンである。

2日目の大笠山が今回のメインイベントである。9～10時間の行程が予定されている。登り始めがいきなり垂直に近い鉄梯子、更に3つほどの鉄梯子が続いて、その先にはクサリとくる。しかしこ

れはほんの入り口に過ぎない。それから2時間ほど急登また急登の連続である。私の前を歩いていた人が、“どうぞお先に”と言って後ろに回ったが、しばらくすると庵原リーダーから“〇〇さんはリタイアしました”と伝えられた。後で聞いたところでは、彼は腰に持病を抱えているみたいで、この日の雨交じりの天候はその持病に触ったようである。登りの後半は、少しは傾斜も楽になったが、最初の急登で体力を使い果たしていたので、バテバテになってしまった。ただし他のジジイたちは、この程度の登りはまったく問題にしていなくて、常に平然としていた。年齢は、私は真ん中程度で、60歳以下はいないように思えた。全く近頃のジジイたちは年齢では測ることができない。





今までであったら、こんな状況を許容することはプライドが許さなかったが、今は何でも受け入れられるようになってしまった。そんなくだらないことよりも、いよいよ山登りがもう無理な体力になってきているのではないかと思わされる。毎日スポーツジムに通って鍛えているのでスタミナには自信があるのであるが、そういった問題とは別の問題もあるみたいだ。足の筋肉がパンパンに張って、山から降りた時には駅の階段程度でもドタドタとしか歩けない。右足は膝が悪く、左足は大腿部が神経痛のような痛みがあって、力を入れて踏ん張るとガクッと力が抜けてしまう。夏には久しぶりに北アルプスの裏銀座を予定していたが無理かもしれない。